

# ■ 2020年度 入試問題分析シート ■

広島大学

前期日程

科目

数学(文系)

総括

試験時間

120分

難易度(昨年比)

難化

昨年並

易化

分量(昨年比)

増加

昨年並

減少

〈総論〉

大問の数は4問と変わらなかったが、昨年多かった融合問題は、今年はあまり出題されなかった。昨年出題されていた極端な難問が出題されなかったため、全体的には易くなったと言える。

〈特記事項・トピックス〉

〔2〕が理系〔1〕と共通問題、〔3〕が理系〔5〕と似た内容の問題であった。昨年度に比べると易くなったが、これは昨年が難化していただけであり、例年通りの難易度に戻ったと言える。

〈合格への学習対策〉

まずは、どの分野も教科書レベルをしっかり学習して、得意な分野と苦手な分野の偏りがないように基礎固めをしておくことよ。その後、入試問題を扱った問題集などで、標準レベルの問題および融合問題の演習に取り組み、計算力、記述力をつけていくことが大切である。

## 設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
〔1〕	記述	Ⅱ	微分法・積分法	放物線に接する条件と、放物線と直線などで囲まれた図形の面積を求める問題。	標準
〔2〕	記述	Ⅰ・Ⅱ	三角比・三角関数	余弦定理を用いて辺の長さを求め、三角形と長方形の面積の和の最大値を求める問題。三角関数の合成を正しくできるかがポイント。	やや難
〔3〕	記述	A	確率	さいころの目と硬貨の表裏によってベクトルの成分を定め、各ベクトルが条件を満たす確率を求める問題。ベクトルの計算をすることはない。	やや難
〔4〕	記述	B	数列	$n$ の偶奇で場合分けされた漸化式から一般項を求め、和を求める問題。偶数番目と奇数番目を別々に見ればよいことを誘導されているので、うまく誘導に乗れたかがポイント。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。